

日帰り客の増加と 観光施設の整備

昭和30年代になると自家用自動車の普及で日帰り客が増え始め、これまでの宿泊滞在型から日帰り通過型に観光客の動向が大きく変わっていききました。これに対応し、また修学旅行などの学習の場を提供する目的で、日本初となる温泉科学博物館が昭和32年に設置されました。

この博物館には、地獄谷や火山などを説明する展示があり、開館当時は多くの入場者でにぎわいましたが、入場者の激減により昭和36年に閉館しました。

また、昭和32年には、登別温泉のまちから四方嶺山頂に、日本初の循環式ケーブル・カーが設置されました。翌33年には、8頭のヒグマ牧場を造り、その後集団飼育に成功し、現在は100頭を超えるヒグマが飼育されています。

倶多楽湖を観光資源として活用することは登別観光の長年の夢でした。昭和26年には現在の道路に切り替わり、昭和30年からクッタラ湖水まつりが行われ、灯ろう流しや花火大会、ボートレースなどの催し物が行われにぎわっていたようです。

昭和35年、日帰り客の増加により1年間の観光客の入り込み数は、100万人まで後少しというところまできていました。しかし、昭和32年にオ

ープンした温泉科学博物館の入場者が減少傾向にあったため、その対策として建設されたのが、町営の登別国際観光会館です。

昭和36年にオープンしたこの会館は、娯楽の殿堂として大いに人気を博していました。国民の余暇時間が増えたことや自家用自動車の普及により、余暇利用の選択を分散させていきました。この影響を受けて昭和45年に民間に移管することになりました。

登別温泉のまつりが定着

昭和26年から始まった温泉祭りもその時々で情勢で開催の有無を判断していたため、定着していません。

皇室と登別温泉

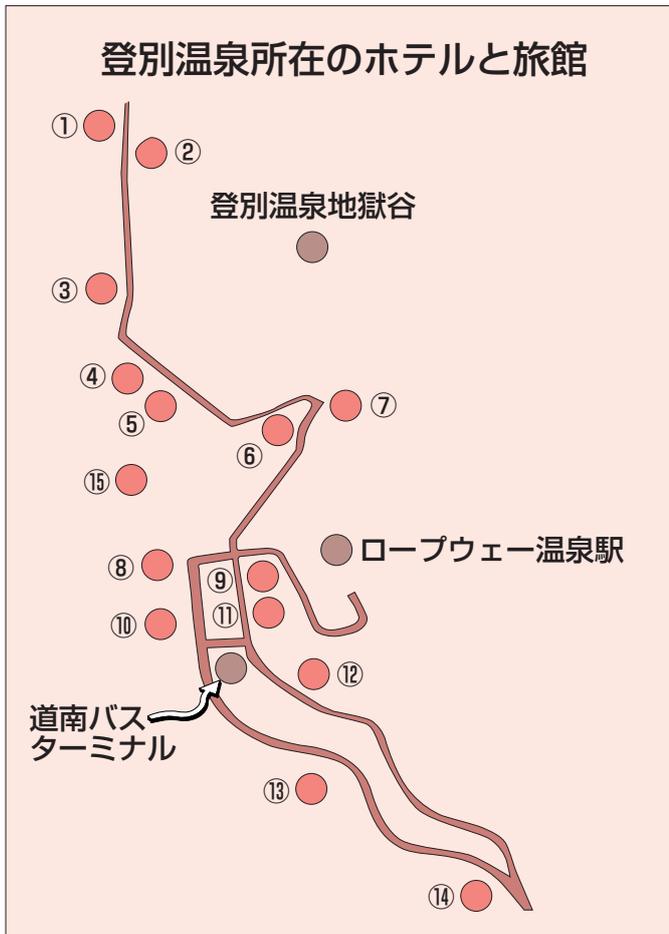
天皇・皇后両陛下は、戦後登別温泉に2度行幸啓されております。

最初は、昭和29年に札幌で開催された国民体育大会に向かう途中で、

した。そのため、新鮮な企画で登別温泉の発展につながる催し物として、観光協会主催の『第1回登別地獄まつり』が昭和39年に華々しく開催されました。そして、地獄まつりは北海道の夏を締めくくる祭りとして、今ではすっかり定着しました。

また、お湯への感謝と冬枯れする観光客を誘致するため、昭和47年に『第1回登別温泉湯まつり』が開催されました。

登別温泉所在のホテルと旅館



NO	ホテル名・旅館名	電話	日帰り入浴	NO	ホテル名・旅館名	電話	日帰り入浴
1	望楼NOGUCHI 登別	☎3939		9	玉乃湯	☎3333	
2	登別石水亭	☎2255	○	10	祝いの宿 登別グランドホテル	☎2101	○
3	御やど清水屋	☎2145		11	ホテルゆもと登別	☎2277	○
4	名湯の宿 パークホテル雅亭	☎2335		12	登別万世閣	☎3500	○
5	旅亭 花ゆら	☎2322		13	温泉オーベルジュ ゆふらん	☎2010	
6	滝本イン	☎2205		14	花鐘亭はなや	☎2521	○
7	第一滝本館	☎3322	○	15	滝乃家 [建替の為休館中]	☎2222	○
8	ホテルまほろば	☎2211					